

# 日本ビジネス実務学会 中国・四国ブロック会報 第36号

Bulletin of the Japan Society of Applied Business Studies,  
Chugoku-Shikoku Bloc, No. 36

発行日: 2023年4月31日  
編集責任者: 堀口誠信(徳島文理大学短期大学部)  
事務局: 〒770-8514 徳島市山城町西浜坊示 180  
URL: <http://jsabs.hs.plala.or.jp/>

## ブロックリーダーより 堀口誠信(徳島文理大学短期大学部)



過去2年間、中国・四国ブロック研究会はコロナ禍における遠隔方式でした。開催時期が8月末ということもあり、教員も学生も一定期間の授業を経てZoomなどによる遠隔方式にも慣れ、特に学生プレゼンテーション大会では海外からの参加があったり、遠隔画面にも関わらず学生同士での活発な質疑応答があったりと、当初心配していたような不自由さはほぼ感じられない、アクティブな学会であったと思います。

ただし、この間、開催日程は1日に短縮のうえ、研究発表数も減っていました。今回、久しぶりに対面方式で2日間の日程が組めて、やはり対面方式は良いという実感をえました。ちょうどこの時期に甲子園球場で高校野球が行われていますが、大会中止があったり、無観客試合があったりした後、今年に入って観客や応援団が入って、当たり前、普通に試合をやっている状況は、何にも代えがたい、と改めて再認識したものです。我々のブロック研究会も同じで、発表者のパワーポイントの準備があって、聴講者が机について、タイムキーパーと司会者がスタンバイして、決められた時間の発表と質疑応答がある、という当たり前の光景がありがたく思えたものです。

さらに、会場となった安田女子大学の施設の素晴らしさに驚きました。特に、学生プレゼンテーション大会に使わせていただいた場所はコンサート会場のようで、実際、学生プレゼンも面白いものが目白押しで大変盛り上がりました。事前にある程度、構想は練っていたのですが、2年後の全国大会(中国・四国ブロック主催)では安田女子大学を会場にすることを即決した次第です。

なお、1つだけ残念だったのは、やはりコロナの懸念から懇親会は中止せざるを得なかったことです。2年後の全国大会主催に向けて、会員の皆様と一致団結していきたいと思っております。

## ブロック研究会・当番校を代表して 立花知香(安田女子大学)



第39回中国・四国ブロック研究会は、2022年8月27日(土)、28日(日)の2日間、安田女子大学を当番校として開催されました。当大学は広島市安佐南区にあり、広島市内からはどこからでもアクセスが便利で、全国大会の候補地に選んでいただいたのは嬉しい限りです。

さて、昨年に引き続き、広島でのブロック研究会開催となったのは、昨年度が遠隔方式で、研究会後に世界遺産の宮島などに会員の皆様をご案内し、楽しんでいただくような機会も得られなかったため、再度、広島開催を望む声が多かったからです。結果的に懇親会はキャンセルとなりましたが、会員の皆様におかれましては、広島の新交通システム・アストラムラインをご利用いただくなど、広島の良さを実感していただけただのではないのでしょうか。

## 日本ビジネス実務学会 第 39 回 中国・四国ブロック研究会 プログラム

(当番校：安田女子大学)

【8月27日(土)】	
12:30～	受付
13:00～	開会の挨拶 当番校挨拶 事務連絡 <span style="float: right;">ブロックリーダー 堀口誠信 立花知香 金岡敬子</span>
13:10～	総会
	研究発表(発表 20 分・質疑応答 10 分) <span style="float: right;">司会:堀口誠信</span>
13:30～	①「コンピテンシー評価と学修ポートフォリオの活用についてーキャリア教育における学修成果の可視化の取り組みよりー」 <span style="float: right;">大阪成蹊大学 福本章先生</span>
14:00～	②「コロナ禍における保育士の就業実態と離職とバーンアウト防止のための支援の在り方」 <span style="float: right;">松山東雲短期大学 桐木陽子先生</span>
14:30～	第 17 回学生プレゼンテーション大会 (発表:5分) <span style="float: right;">司会:名和晋也</span>
	①インターンシップで学んだこと <span style="float: right;">山陽女子短期大学人間生活学科2年 佐藤菜々子</span> ②褒める人は本当に優しい? <span style="float: right;">山陽女子短期大学人間生活学科2年 黒山明日香</span> ③マスクが女子大学生の非言語的コミュニケーションをどう変えたか <span style="float: right;">安田女子大学現代ビジネス学科3年 藤井一葉、沖中亜優、宮川夏歩、浅尾ななみ、吉屋遥香</span> ④中国人留学生の大学体験記 <span style="float: right;">中国学園大学国際教養学科3年 顔麗娟</span> ⑤岡山市魅力不思議探検隊を通して学んだこと <span style="float: right;">中国学園大学国際教養学科3年 大賀弥音</span>
15:20～	学生プレゼンテーション大会の表彰・総括 <span style="float: right;">堀口誠信</span>
	招待講演
15:30～	「くらしとお財布のランキング」 四国大学短期大学部 加渡いづみ 先生
17:00～	事務連絡 <span style="float: right;">立花知香</span>

【8月28日(日)】	
9:10～	受付
	研究発表(発表 20 分・質疑応答 10 分) <span style="float: right;">司会・堀口誠信</span>
9:30～	③「販売実習を実施して得るビジネスパーソン能力:商業高校生の調査よりー」 <span style="float: right;">岡山県立新見高等学校 名和晋也先生</span>
10:00～	④「学生調査からみたコロナ禍の影響と課題」 <span style="float: right;">山陽女子短期大学 金岡敬子先生</span>
	休憩(15 分)のあと研究発表(発表 20 分・質疑応答 10 分) <span style="float: right;">司会・吉田順子</span>
10:45～	⑤「YouTube 等を活用しての久米南町下鞆地区での PBL と社会人基礎力」 <span style="float: right;">中国学園大学 佐々木公之先生</span>
11:15～	⑥「YouTube 導入によるビジネス実務教育への多様な可能性とその効果検証」 <span style="float: right;">中国学園大学 佐々木公之先生</span>
11:45～	閉会の挨拶

## 招待講演

**講師: 加渡いづみ(かどいづみ)先生**  
四国大学短期大学部 教授

**演題: 「暮らしとおサイフのランキング: 消費者の志向と地域の変化」**

### 講師紹介

1. 略歴: 損害保険会社の勤務を経て、中京大学国際教養学部、徳島大学全学共通教育センターなどで講師を歴任し、現在、四国大学短期大学部教授。本学会でも、中国・四国ブロック研究会などで数多く研究発表をされ、活躍中です。
2. 徳島県内の方々にとっては、四国放送テレビの情報番組「ゴジカル！」で、暮らしとお金の話題を理解する「くらしの泉」のコーナーを担当するコメンテーターとして広く知られています。切れ口の鋭いコメントと、一般視聴者にもわかりやすい具体的な解説で、消費者問題から暮らしを取り巻くデータまで視聴者にお得なミニ知識を提供しています。
3. 専門はライフプランニング。生活・人生・金融など、総合的な分野で研究され、最近では SDGs (sustainable development goals) やエンカル消費の普及啓発に努めています。また、徳島県消費生活審議会会長、働く女性応援ネットワーク会議会長などを務め、2017 年には消費者支援功労者表彰(内閣府特命担当大臣表彰)を受けました。



### 講演概要

学会員他、プレゼンテーション大会に参加後の大学生も一緒に聴講する中、「この部分の話、年配者向けのネタなんだけど、ついていける？」など、学生たちともコンタクトを取りながら、終始和やかに、時にはジョークも入れながら講演は進行しました。

導入部分では、地域社会の変化を人口や世帯構造、ライフスタイルの視点から分析するとともに、消費行動もモノ消費からコト消費、そしてヒト消費からパーパス消費へと変化していることが紹介されました。特に、若い世代においては「時短」意識や、プロセスよりも結論重視の傾向が強いことから、今後の地域社会の支え手となる人たちの「お金の使い方」について話が及びました。

また、近視眼的行動バイアスや横並び行動バイアスの強さ、損失回避傾向の都道府県比較には、普段の行動を振り返りながら納得する面も多く、データから見る県民性の面白さに参加者の関心も高まりました。その他、社長輩出率や女性活躍、運動不足と家電充実度、通信販売で「送料無料についつい不要な商品を買ってしまう」ランキングなど、様々な切り口から各県の傾向を紹介した後、これから構築する消費者市民社会、持続可能な地域社会に、私たちが積極的に参画をする大切さを参加者で共通認識することができました。

## 研究発表概要一覧 発表者氏名、所属、タイトル、研究領域(→で表示)、発表概要の順

### 1. 福本章(大阪成蹊大学)

#### 「コンピテンシー評価と学修ポートフォリオの活用についてーキャリア教育における学修成果の可視化の取り組みよりー」

#### →【1】ビジネス実務教育 3)教育方法の研究



#### 1. 背景

1997年スタートしたOECDのDeSeCoプロジェクト(2003年報告)では、キー・コンピテンシーを新たな能力概念として発表しました。一方、2011年の大学・短大の設置基準改正により、キャリア教育が実質的に義務化されて以降、2014年の文部科学省「大学教育再生加速プログラム(AP)」では、卒業時における質保証の取組の強化を課題としました。APのコンセプトは、高校や社会との円滑な接続のもと、3つのポリシーに基づき、入学から卒業まで、質保証の伴う大学教育を実現が求められました。具体的取り組みとしてアクティブ・ラーニング、学修成果の可視化が掲げられています。

#### 2. 目的・方法

本研究の目的は、キャリア教育科目の運営にあたり、学修ポートフォリオによる学修成果の可視化を目的としています。成績評価にはコンピテンシー評価を活用し、学修成果の可視化はもとより、質保証の達成を目指すものです。

本研究は2021年のA大学3年後期キャリア教育科目を履修した3年生197名を対象に実施しました。キャリア科目の内容は、産官学連携のPBLとしました。学修ポートフォリオは、毎回テーマを掲げたリフレクションシートをベースとしました。

評価基準となるコンピテンシーは、河合塾のアセスメントツールを活用しました。授業終了時には、学修成果について伸長を確認することで可視化の達成を目指しました。

#### 3. 結果

学修ポートフォリオは、対象学生197名中179名(90.1%)が完成させることができました。未提出者18名は、多欠席から資料作成の進捗が遅れ、結果として完成に至らなかったことから、単位不認定にもなりました。完成した学修ポートフォリオは、学生記載25~30頁、及び配布資料20項と合わせ50頁弱から成るファイルとなりました。

学修成果の可視化として、アセスメントツールによるコンピテンシーの指標では、行動持続力、統率力の指標を中心に伸長が見られましたが、実践力に関するコンピテンシーの指標が低下していました。また、自己評価によるコンピテンシーのルーブリックをリフレクションとしました。自己評価での学修成果では、親和力と、実践力が高い伸長を示しました。

授業は個人ワークでの資料作成、チームでの企画案の作成、プレゼン資料作成、成果物等の作成があり、時系列でフローチャートのように学修ポートフォリオを構築するため、学生にとっては煩雑な作業が大幅に増えましたが、キャリア教育の学修成果と可視化といった視点で学修ポートフォリオは貴重なエビデンスとなりました。

#### 4. 考察

本研究では、キャリア教育科目での学修ポートフォリオ制作を授業テーマとしたもので、コンピテンシー評価、アセスメントツールは、授業運営の成否を確認した程度になっています。したがって、コンピテンシー評価と3つのポリシーとの整合性を検証したものではないため、科目毎にコンピテンシー評価を検証していくことが本来の目的・課題であると考えています。

## 2. 桐木陽子(松山東雲短期大学)

共同研究者として: 友川礼(松山東雲短期大学)、友川幸(信州大学学術研究院)、三宅公洋(信州大学教育学部)

「コロナ禍における保育士の就業実態と離職とバーンアウト防止のための支援の在り方」

→ 【2】ビジネス実務研究 2)人材育成と能力開発



### 【研究目的】

昨今の新型コロナウイルス感染症対策下(以下、コロナ禍)においては、感染症の蔓延を防ぐための衛生管理や健康関連活動のみならず、適切な感染対策のための外部情報の収集、保護者や保育士への対応等が求められました。しかし、これまでの研究では、コロナ禍発生前後での、保育士の就業実態や健康危機管理下における保育所のマネジメントの実態とその変化については十分に明らかにされていません。そこで、本研究では、今後保育所に求められる健康危機管理の方策と課題を明らかにし、保育士の離職やバーンアウトを防止するためにどのような支援、取組が必要であるかを明らかにすることを目的として実施しました。

### 【方法】

2020年9月～12月に、地方都市A県の保育協議会に加盟する全264園(回答率83.0%)を対象とし自記式質問紙による郵送法で調査を実施しました。質問紙では、施設の基礎情報(設置主体、園児・職員数等)、コロナ禍発生前の感染症対応に関する組織体制についてのレディネス、コロナ禍発生の衛生管理と健康関連活動(19項目)、感染対策のための外部情報の収集(8機関)、保護者対応、保育士の就業ニーズに対する対応状況等について回答を得ました。保育士の離職やバーンアウト防止のための支援を探るためのデータ分析では、保育士からの所属園や行政に対する要望(自由記述)を分析しました。

### 【結果】

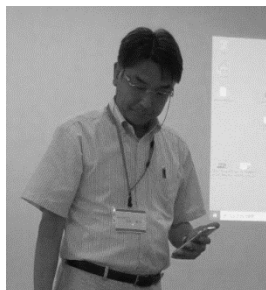
1. 発生期から拡大期に「保育所における感染症ガイドライン」と新型コロナウイルス感染症の対応による新規の予防活動に対する保育所での遂行率の高さ・業務の増加
2. 業務増加に伴い、保育士の負担感とストレスによる心身の反応
3. しかしながら、負担感の軽減に関連する3つの要因も認められました。
  - ①所属園の理念・保育方針等の理解・理念及び方針の実践との関連性
  - ②所属園の健康危機管理体制の準備状況と保育士の理解状況との関連性
  - ③所属園の勤務年数との関連性

今後は、好事例ととらえる保育所の組織レベルの取組みの分析を行い、保育士の離職とバーンアウト防止のための方策を検討したいと考えています。

### 3. 名和晋也(岡山県立新見高等学校)

#### 「販売実習を実施して得るビジネスパーソン能力-商業高校生の調査より-」 名和晋也

##### → 【1】ビジネス実務教育 3)教育方法の研究



#### 1. 概要

内閣府(2020)令和2年度子供・若者白書(全体版)2章で、全ての子供・若者の健やかな育成の中で高校生は「社会・職業への移行」が円滑に出来ていないと指摘されています。そのため高校生がビジネスパーソンの基礎をどのように身に付けるのか実証実験としてA商業高校の2年生19名が2021年7月19日・20日に地域センターで販売実習を実施し、インタビュー調査後M-GTA分析を行いました。その結果販売実習前は3カテゴリー、5概念、販売実習後は3カテゴリー、8概念が抽出されました。

#### 2. 仮説の設定

販売実習について学術的な資料は少なく多面的な研究効果が限定されているため、高校商業科の販売実習について、

- 1.効果について明らかにする。
- 2.ビジネスパーソンの資質・能力が身に付く。

という販売実習前後の変化を見るのは意義があると判断しました。

仮説として、販売実習を経験して得られる効果は

- 1.今までの学びが実習をとおして社会の一員として意識が芽生えるのではないか。
- 2.自己有用が高まるのではないか。
- 3.進路選択が広がるのではないか。

以上の3点について一人15分程度、販売実習前後に半構造化インタビュー調査を実施し逐語録を作成後M-GTA分析を行いました。

#### 3. 考察および結果

プロセスに至るストーリーについて、

販売実習前には、

【販売に対して不安】があり、【前向きになりにくい気持ち】があった。それは〈初めて学ぶ事に対する不安〉である。しかし目の前の課題を解決するために【みんなと話し合い】を行い〈話し合いの大切さ〉を改めて知る。そして〈今まで学んだ事を活かす〉ため【広告の大切さ】や【店舗設計のレイアウトの大切さ】を知り事前準備を始めた。

販売実習後は

【お客様が喜んでくれた】。お客様が喜ぶと【大変だが楽しさの方が大きい】。頑張れ、ありがとう等、お客様に【褒めてもらった】のが嬉しく〈やりがい・達成感により自己有用感が身に付いた〉。しかし、みんな【意見の調和】を図っていた。意見の一方通行ではいけないと、【対話して自ら考える】必要性を訴えた。また【行動する事が大切】だと知り、【仕入・販売の対応】は丁寧に行うようになった。机上学習後、販売実習をすると1日目と2日目でPOPや、商品の置き場所を変えるだけで売れ方が違うことに驚き、実際の【販売方法を知る】事になった。

一連の行動は「主体的・対話的で深い学び」であり、「次の課題を探し問題点を自ら解決する態度」に変化して行く。というストーリーが出来上がります。

結果として積極的に取り組む姿勢や、お客様が自分たちの事を頼ると自己有用感が高まる事が分かりました。体験的な学びが授業と結びつき、ビジネスパーソンの資質・能力を育成している可能性があることを明らかにしました。

#### 4. 金岡敬子(山陽女子短期大学)

##### 「学生調査からみたコロナ禍の影響と課題」

##### →【1】ビジネス実務教育 3)教育方法の研究



#### 1. 概要

コロナ禍において担当した3大学における学生の学びから見えてくる実状把握し、いまだ出口の見えないコロナ禍での大学生の学習の権利を今後どのように保証していくかについて、調査・報告をすることを目的とする。

#### 2. 調査対象学生

担当した3大学の学生210名への調査を行った。各大学の受講学生の状況は以下の通りである。

##### ・S 短期大学 2年生 91名

2年間コロナ禍で授業の8割はオンライン授業を受けて卒業した学生

##### ・H 四年制大学 1年生 57名

1年次前期は全面オンライン授業で受講、1年次後期から初めて対面で授業を受け、同級生とも初めて対面でコミュニケーションを取った学生

##### ・I 短期大学 1年生 62名

1年次6月までは、全員自宅でのレポート課題とオンライン授業、7月から対面授業を受けた学生以上、3大学での授業方法は、学生の自宅でのネット環境やPCの所有率により、それぞれ異なっていた。

#### 3. 対象学生の調査方法

担当した学生に限定しているため、質問紙とヒアリングでの調査を実施した。調査は三段階で行なった。第一段階は、質問紙によるアンケート調査を受講生全員に実施、第二段階は、質問紙の項目の中から、さらに詳細調査を行う為自由記述でアンケート調査を取った。第三段階では、第二段階の質問紙から、特に気になる内容を記述した学生へのヒアリング調査を個別に行った。

#### 4. 遠隔授業での問題点

受講学生については、受講前に調査ができない状況で遠隔授業をスタートしたことでいくつかの問題点が出てきた。

- (1) 視覚障害・聴覚障害学生に対する配慮が十分に出来ないまま遠隔授業を行ったことで、学生への負担が大きかった。
- (2) 入学後、一度も学校に登校できないまま授業がスタートしたことで、教える側の学生の状況把握が十分にできなかった。
- (3) 遠隔授業に慣れていない学生であったのにも関わらず、すべての授業で提出課題が多く課されていたため、学生の負担が大きかった。

#### 5. 調査結果および考察

学生へのヒアリング調査では、遠隔授業のメリットとして、通学が必要ないため移動時間のストレスが軽減されると回答した学生が多かった。しかし、大学で友達ができない、課題提出が多すぎることによる寝不足やストレスを感じると回答する学生も多かった。

また、今後は対面型と遠隔型のメリットを取り入れてハイブリッド型で授業を実施して欲しいとの回答も多かった。さらに、ハイフレックス型も取り入れて欲しいとの意見もあった。今後コロナ禍が終息しても、講義科目か演習科目かによって、授業方法を工夫することにより、学生の負担の軽減をさせることも可能であるため、より多角的な視野で授業運営を考えていく必要がある。

## 5. 佐々木公之(中国学園大学)

### 「YouTube 等を活用しての久米南町下靱地区での PBL と社会人基礎力」

#### → 【1】ビジネス実務教育 3)教育方法の研究

##### 1. 久米南町下靱地区での PBL

2020年6月より、中国学園大学国際教養学部佐々木ゼミ(以下、本ゼミ)では、岡山県の中山間地域の一つである久米南町下靱地区(以下、下靱地区)にてPBL(課題解決型学習)に取り組んでいます。

PBLのきっかけは、学生の一人が、学生時代に祖父母が暮らした人口84名の下靱地区の地域活性化の取り組みがしたいと直訴し、他のゼミ生からの同意を得て始まりました。PBLを行うにあたり、下靱地区の住民と久米南町役場と活動テーマと活動内容を協議しました。結果、PBLのテーマを、「孫世代の関係人口獲得に向けた企画と久米南町下靱地区の課題発見」となりました。

##### 2. PBLの活動内容

活動内容は、住民や役場と協力しながら村の魅力を見つけ出し、学生の感性を活かしてYouTube動画を制作し情報発信を行いました。

このPBLでは、学生たちが自ら地域に赴き、農業体験、山の散策、また地域の方々と交流し話をすることで下靱地区の良さや、地域住民が何を求めているかを知ることを指導しました。本PBLでは、学外の方と多く接触するため挨拶、遅刻、報告書作成などの規律の重要性についても強く指導しました。また、学生の主体性を引き出すため、下靱地区からの要望は、教員は介さず学生に直接していただきました。YouTube企画に関しても、教員は極力口を挟まず相談にのる程度に留めました。

##### 3. 本PBLと社会人基礎力の成長

本PBLが、社会人基礎力の成長にどのように役立った検証するため、2021年12月PBLに参加した学生(7名)にアンケート調査を実施しました。

###### ① 前に踏み出す力の成長

祖父母の住んでいた村であり幼い頃からの顔馴染みの方も多く、高齢化、人口減少への強い危機感と村の人々の役立ちの思いが主体性を引き出した回答していました。また、村のPR動画10本以上制作を目標に掲げ、同級生・後輩、住民に協力を依頼し協働でYouTube動画制作に取り組みました。この働きかけ力と実行力により、13本の動画が制作することができたと回答がありました。

###### ② 考え抜く力の成長

YouTube動画制作にあたり、全員で現地調査や農業体験、住民へのインタビュー調査を通じて下靱地区の抱える課題や関係人口獲得の必要性が理解でき課題発見力に繋がったとする回答が多々ありました。また、学生だけのYouTube動画の企画制作を通じて計画力の重要性、村の魅力をどう動画に落とし込むかなどで創造力が身に付く機会となった回答していました。

###### ③ チームで働く力の成長

住民からの要望を迅速かつ正確に伝えなければチームに迷惑を掛けてしまうため、遅刻厳禁と提出期限厳守などで規律性と報告書作成、連絡事項の細かいチェックなどの習慣が身に付いた回答がありました。

アンケート調査の結果から、本PBLが多くの社会人基礎力向上に繋がった取り組みだったことが検証されました。

\*このPBLは、2021年度社会人基礎力育成グランプリ中国・四国地区予選大会(一般社団法人社会人基礎力)から、優秀賞として表彰いただきました。



## 6. 佐々木公之(中国学園大学)

共同研究者として: 福本章(大阪成蹊大学)、吉田順子(広島女学院大学)、名和晋也(岡山県立新見高等学校)、石床渉(せとうち観光専門職短期大学)

「YouTube 導入によるビジネス実務教育への多様な可能性とその効果検証」

→ 【1】ビジネス実務教育 3)教育方法の研究

### 1. 本研究の目的

本研究は、YouTube 導入によるビジネス実務教育(含む、PBL)への多様な可能性とその効果について検証するものです。本研究を通じて、情報技術の発達やコロナ禍によるオンライン教育が加速する中で、ニューノーマルな時代に合わせ YouTube を活用したアクティブラーニングの教育プログラムの開発を検討します。



### 2. 研究の背景

研究代表者は、コロナ禍により宿泊体験やフィールドワーク調査など学外での学びが制限される中で、2020年度より、アクティブラーニングの一環として動画共有サイト YouTube をゼミナール教育(以下、ゼミ教育)、PBL(課題解決型学習)に積極的に取り入れています。

YouTube をゼミ教育に導入した理由として、学生たち自らが動画の企画制作、出演することで学生たちの主体性や創造力、発信力などの社会人基礎力として必要とされる能力要素の向上が図れるものと思い導入しまし

た。結果、働きかけ力、問題発見力、発信力など多くの能力要素で大きな成長に繋がったと実感していました。

本研究では、ゼミ教育の限定するのではなく、YouTube 導入によるビジネス実務教育の可能性を模索し検証を行っています。

### 3. 研究の流れ

研究の流れとして、以下の4つで検証を行っています。

- ① 教育に YouTube 導入している先行研究の精査
- ② 大学生に対して YouTube と日常生活・大学教育に関するアンケート調査を実施
- ③ 教員に対して、アンケート調査結果を踏まえてインタビュー調査を実施
- ④ YouTube 導入によるビジネス実務教育への多様な可能性と導入への障害と想定されるリスクについて考察

### 4. アンケート調査

2022年6月1日～15日に、中国学園大学、大阪成蹊大学、広島女学院大学、せとうち観光専門職短期大学の大学生(n=188)に対して YouTube に関する16項目のアンケート調査を実施しました。

アンケート調査の結果、大学生に毎日 YouTube の視聴習慣があることが分かりました。好きな YouTube のジャンルとして、教育・ビジネス系が12人(6.4%)少ないことが判明しました。YouTube を大学教育に取り入れることを望む学生は、導入に反対する学生より多い回答結果になりました。また、自分自身が YouTube に出演することや動画編集を行うことをあまり望んでいないなどもアンケート結果から明らかになりました。

### 5. アンケート結果からの考察

このアンケート調査を通じて、以下の4つの点について考察しました。

- ① YouTube 視聴は日常化し増加傾向であるが、教育分野あまり上手く活用できていない。
- ② 無料、コンテンツの豊富さなど YouTube の視聴に興味はあるが出演・投稿を希望していない。
- ③ 講義の聴講時に YouTube 導入を望む学生は多いが、40%以上の未経験である。
- ④ YouTube 特有の教育(コンテンツ作成や発表ツール)として活用を望む学生は多くはない。

### 6. 今後

大学教員に大学教育への YouTube 導入の有無のインタビュー調査を行い、YouTube の効果的な活用方法と想定されるリスクについて検討したいと思います。

## 学生プレゼンテーション大会 発表内容一覧

### 1. 山陽女子短期大学・人間生活学科 2年 佐藤菜々子

#### 「インターンシップで学んだこと」

私は、1年生の春休みに社会福祉法人の施設でインターンシップをさせていただきました。実習でお世話になった施設は、デイサービスと特別養護老人ホーム事業を行っています。そこで食事や排泄、離着床などの介助を経験しました。さまざまな仕事をさせていただく中で、介護職の大変さやその裏にあるやりがいを身をもって感じる機会となりました。また、チームワークの大切さや相手を第一に考える姿勢など、仕事への取り組み方について多くのことを学び、とても貴重な経験になりました。

(指導者:山陽女子短期大学・人間生活学科・教授・金岡敬子)

### 2. 山陽女子短期大学・人間生活学科 2年 黒山明日香

#### 「褒める人は本当に優しい？」

皆さんの周りで自分の意見を褒めてくれる友達やクラスメイトはいますか？褒められた人にとっては、それはとても嬉しいことですが、褒めた側は相手に対して本当に心からそう思って褒めているのでしょうか？私は、そういった何でも自分自身を肯定してくれる人は、本当に優しいのか、心からそう思っているのかといった疑問をテーマにして、その人の心理や、考え方の特徴、そして理由について調査して発表します。

(指導者:山陽女子短期大学・人間生活学科・教授・金岡敬子)



### 3. 安田女子大学現代ビジネス学部現代ビジネス学科 3年 藤井一葉、沖中亚優、宮川夏歩、浅尾ななみ、吉屋遥香

#### 「マスクが女子大学生の非言語的コミュニケーションをどう変えたか」

私たちは卒業研究で非言語的コミュニケーションについて学んでいます。新型コロナ禍により、これまでのような対人コミュニケーションが制限され、マスク着用が当たり前になりました。このような変化は私たちの非言語コミュニケーションの使い方何らかの影響を与えているのではないかと考えました。そこで、女子大学生を対象にアンケート調査を行い検証することにしました。今回はこの調査結果及び考察を発表します。

(指導者:安田女子大学現代ビジネス学部現代ビジネス学科・准教授・立花知香)

#### 4. 中国学園大学 国際教養学科 3年 顔麗娟(がんれいけん) 「中国人留学生の大学体験記」

日本学生支援機構によれば、242 千人(2021 年)も留学生が日本で学んでいます。その中、中国人留学生在が、114 千人(構成比 47.1%)でもっとも多く、次いで、ベトナム、ネパールの順になっています。現在、岡山県には 3,432 人の中国人留学生在が学んでいます。発表者も、語学学校、大学と約 5 年間、岡山県の教育機関で学んでいます。本発表では、自身の大学生生活の体験記を通じての過去の苦労や疑問、現在の大学生での喜び、そして、将来の夢について発表したいと思います。  
(指導者:中国学園大学・国際教養学科・教授・佐々木公之)

#### 5. 中国学園大学 国際教養学科 3年 大賀弥音 「岡山市魅力不思議探検隊を通して学んだこと」

2021 年 9 月～2022 年 1 月の約 5 ヶ月間、ゼミ生 6 人で、岡山市の地域活性化グループ「岡山市“魅力・不思議”探検隊(以下、探検隊)」を立ち上げ、スマートフォンで動画を撮影し、無料編集アプリを使い岡山市の PR 動画を 30 本制作し、動画共有サイト YouTube にて情報発信を行ってきました。また、完成した動画をまとめたチラシを制作し、おかやま観光コンベンション協会に寄贈するなど普及活動を行いました。本発表では、探検隊の活動内容と活動を通じて得た学びについて発表したいと思います。  
(指導者:中国学園大学・国際教養学科・教授・佐々木公之)

## 総会概要

1 号議案: 第 41 回全国大会・理事会報告

- 1) 第 41 回全国大会(名古屋大会・遠隔大会)・担当:中部ブロック(愛知東邦大学)  
詳細は本学会 HP をご覧ください。

2 号議案: 2021 年度事業報告・収支決算

- 1) 2021 年度ブロック活動報告  
第 38 回ブロック研究会の開催  
詳細(開催地・日付・参加人数など)は『日本ビジネス実務学会中国・四国ブロック会報』第 35 号  
をご覧ください(本学会 HP より PDF でダウンロードできます。)
- 2) ブロック研究会と総会の開催  
遠隔 Zoom 方式のため、当日の集合は研究会のみで、総会は運営委員によって承認された内容  
を後日、会員にメールで通達。
- 3) ブロック研究助成の募集
- 4) 第 16 回学生プレゼンテーション大会の実施(研究会と同日)  
詳細(開催地・日付・参加人数など)は『日本ビジネス実務学会中国・四国ブロック会報』第 35 号  
をご覧ください(本学会 HP より PDF でダウンロードできます。)

- 5) 運営委員会の開催:今回、全てメール審議となりました。運営委員 6 人に加え、アドバイザーとして佃昌道先生、桐木陽子先生の 2 名からも意見を伺いました。  
2022 年に入ってからメール審議は以下の通り:  
第 1 回・3 月 25 日(金):ブロック研究会に関する概要の調整  
第 2 回・6 月 27 日(月):ブロック研究会案内第 1 報・第 2 報のスケジュール調整  
第 3 回・7 月 18 日(月):ブロック研究会案内第 1 報・第 2 報のスケジュール調整  
第 4 回・7 月 19 日(火):プログラムの調整
- 6) 2021 年度・収支決算書  
研究会当日、総会資料として承認されました。

### 3 号議案: 2022 年度事業計画・予算

- 1) 2022 年度ブロック活動計画  
第 39 回ブロック研究会の開催(対面方式)  
開催日: 2022 年 8 月 27 日(土)、28 日(日)  
会場:安田女子大学
- 2) ブロック研究会と総会の開催  
開催日・会場は、ブロック研究会と同じ
- 3) ブロック会報・第 36 号の発行。本学会 HP より PDF でダウンロード可能。会員全員に通達。
- 4) ブロック研究助成(第 2 回)の募集を通知  
詳細はブロック研究会終了直後にブロック会員全員にメールで通達。
- 5) 第 17 回学生プレゼンテーション大会の実施  
開催日・会場は、ブロック研究会と同じ
- 6) 運営委員会開催予定  
第 1 回 2022 年 8 月 28 日(日)

### 4 号議案:

- 1) ブロック運営委員は 4 年目なので、交代時期です。(2019 年 5 月～2022 年 8 月現在)  
リーダー・堀口誠信(徳島文理大学短期大学部) サブリーダー・関由佳利(高松短期大学)  
運営委員・吉田順子(広島女学院大学) 運営委員・加渡いつみ(四国大学短期大学部)  
運営委員・佐々木公之(中国学園大学) 運営委員・佐藤麻衣(高松短期大学)
- 2) その間のブロック研究会開催地と参加人数、会員総数(滞納者を除く実質会員総数)の変遷  
2018 年 高松短大 14 人参加 会員総数 41 人  
2019 年 広島女学院 20 人参加 会員総数 39 人  
2020 年 四国大(遠隔) 15 人参加 会員総数 34 人(38 人マイナス滞納 5 人)  
2021 年 山陽女子(遠隔) 11 人参加 会員総数 38 人(39 人マイナス滞納 1 人)  
2022 年 安田女子 13 人参加 会員総数 34 人(37 人マイナス滞納 3 人)  
(学生プレゼンの参加者は常に 5 組前後) (シニア会員は入れ替わり立ち代わり常に 3 人前後)
- 3) 他ブロックの実質会員総数:北海道 19、関東東北 81、中部 56、近畿 65、九州沖縄 32

- 5 号議案: ブロック研究助成(第 2 回)の募集を通知  
詳細はブロック研究会終了直後にブロック会員全員にメールで通達。  
応募条件、申込フォームなどは昨年と同様。  
応募締切を 2022 年 10 月末日としました。

- 6 号議案: ブロック研究会・学生プレゼン大会の開催様式・日程についてのウェブアンケートの集計結果について

ブロック研究会の日程について、最も参加しやすい(もしくは参加者増を見込める)と思うもの  
従来方式:8 月下旬か 9 月上旬の 2 日間:43%  
新方式:学生プレゼン大会のみ 8、9 月に遠隔で実施、ブロック研究会を対面で 2、3 月:57%

学生プレゼン大会に参加した学生の声:他学の先生方や学生との対面でのコミュニケーションに大きな刺激を受けた。  
教員の側からの意見:プレゼンそのものを、初対面のオーディエンスを前に実施するのは貴重な機会となる。学生プレゼンを実施するのであれば、対面を前提にしたほうが良い。

ブロック研究会以外の活動として「オンライン交流会」に参加したい:43%

どのような会なら参加してみたいと思うか(自由記述):テーマを絞っているなら、共同研究のメンバー  
同士なら、授業形態の情報交換会、

「オンライン交流会」を主催してみたいか:14%

ブロック活動を活性化するためのアイデア(自由記述):研究助成、オンラインなら

- 7号議案: 次回全国大会の開催校・日程について  
近畿ブロック担当。対面方式か Zoom 遠隔方式かについては未決定。詳細は本学会 HP をご覧ください。